



二世梅若万三郎33回忌追善公演

橘香会

令和五年十月二十二日(日)
午後一時開演 国立能楽堂

主催・公益財団法人梅若研能会

舞囃子 卒都婆小町 梅若万三郎

能 松

風 梅若 紀長
見留 梅若 志長

狂言 箕

能 天

被 野村 万作

鼓 梅若 紀佳
弄鼓之舞



二世梅若万三郎 33回忌追善公演 橘香会

令和5年 10月22日(日) 午後1時始(12時開場) 於・国立能楽堂

能 松風

見留

シテ 松風 梅若 紀長
ツレ 村雨 梅若 志長
ワキ 旅僧 宝生 常三
アイ 浦人 飯田 豪
(森常好改メ)

後見 加藤 眞悟 山中 遼晶
萩原 郁也 梅若 泰志
青木 健一 山崎 正道
古室 知也 梅若 紀彰
遠田 修 八田 達弥

地謡

休憩十五分

狂言 箕被

三時五分頃

シテ 夫 野村 万作
アト 妻 高野 和憲
後見 岡 聡史

舞囃子 卒都婆小町

三時二十五分頃

シテ 梅若万三郎

笛 松田 弘之
小鼓 久田舜一郎
大鼓 亀井 広忠

地謡

梅若 泰志 山中 遼晶
長谷川晴彦 伊藤 嘉章
八田 達弥

四時頃

能 邯鄲

休憩十五分

仕舞 笛之段 梅若 紀彰

当麻 梅若万佐晴

地謡 青木 健一
長谷川晴彦
中村 裕
加藤 眞悟
古室 知也

能 天鼓

弄鼓之舞

前シテ 王伯 梅若 紀佳
後シテ 天鼓 石田 善博
ワキ 勅使 館田 幸雄
アイ 勅使の從者 藤田 貴寛

小鼓 久田舜一郎
大鼓 柿原 孝則
太鼓 大川 典良

後見 梅若万佐晴

梅若 泰志
中村 裕

地謡

中村 政裕 八田 達弥
青木 健一 伊藤 嘉章
梅若 久紀 青木 一郎
遠田 修 加藤 眞悟

終了予定 五時四十五分頃

能【松風見留】

昔から、「熊野(ゆや)松風は(に)米の飯(二度のご飯と同じくらい飽きのこないことのとえ)」と言われるほどで、春の季節曲である熊野と並び、非常に高い人気があります。

「松風」では恋慕の情の表現が際立ち、うねるようなその変化が、ほかにないような面白さを導き出しています。松風、村雨が昔を思つてさめざめと涙するところにはじまり、行平の形見を松風が懐かしむクセの場面、その形見を着た松風が松の立ち木を行平と想う場面を経て、「中の舞」「破の舞」へ至ります。次第に感情が高ぶり、恋慕がすっかりあらわになり、極まっていくのですが、その底にはあくまでも位のしっかりした三番目物のしっとりした雰囲気の流れ、深々とした緊張感が漲ります。

狂言【箕被】

妻は、連歌に熱中して家に寄りつかない夫に愛想をつかし、離縁してくれという。夫は暇のしるしに妻が手慣れた箕を渡すと、それをかぶつて妻は出て行く。その後ろ姿を見て夫が思わず(いまだ見ぬ二十日の宵の三日月(箕被)は)と発句を詠むと、妻は(今宵を出づる身(箕)こそ辛けれ)と脇句を付ける。妻の見事な手並みに驚いた夫は、これからは家において夫婦で連歌を楽しもうと、家に呼び入れる。

能【天鼓弄鼓之舞】

前半では、わが子である天鼓を失った王伯の、悲運の別れに対する情愛と嘆きを中心に描き、後半では一転して、天鼓という神秘的な存在の芸術に遊ぶ、自由闊達な精神を中心に描いています。前後で老人から子どもへ、シテが大きく入れ替わり、対比の妙があるところに、もう一つの天鼓である不思議な鼓をからませ、非常に魅惑的な芸術性の高い物語に仕上がっています。

国立能楽堂

渋谷区千駄ヶ谷4-18-1
☎ 03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分



国立能楽堂 座席表

みどころ講座

10月7日土

13:00~14:30 (開場 12:45)

於・梅若万三郎家能舞台
(渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円
(※研究会入場券購入者は無料)

講師
うめわかりのりなが 梅若紀長
うめわかりのりか 梅若紀佳
うめわかゆきなが 梅若志長

橘香会 入場料(全席指定)

指定席S 12,000円
指定席A 10,000円
指定席B 8,000円
指定席GB 6,000円
学生席 各席 3,000円引き(要学生証)

お申込み

e+ (イープラス)

カンフェティ ☎ 0120(240)540 (平日11:00-18:00)

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

Facebook フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!

お問合せ・お申込

公益財団法人 梅若研能会 渋谷区西原1-4-2 TEL 03(3466)3041

(メールアドレス) staff@umewakakenohkai.com (ホームページ) http://www.umewakakenohkai.com